

道徳部報

令和元年 2月21日
浜松市教育研究会道徳部発行
第3回研修会の報告

今年度も全3回の研修が終了しました。研修会への御参加ありがとうございました。

今回の道徳部報では、第3回の授業研修の様子を報告させていただきます。来年度の研修にも、多くの方々の参加をお待ちしております。



今年度の研究目標

「夢や希望をもち、よりよく生きる子供を育む道徳教育
～考え、議論する道徳科の授業を核に～

第1ブロック 白脇小学校 杉山洋平先生（6年生）

主題名 本当の思いやりとは何だろう B 親切・思いやり

教材名 父の言葉

本教材は、黒柳徹子さんが病気で入院した幼少期の話である。退院後自分は奇跡的に歩けるようになったが、同じ病気で入院していた女の子は、退院後も松葉づえを必要とする生活になってしまう。授業では、「自分だったら話し掛けるか」の問いを子供たちが自分ごととして捉え、自分の立ち位置を明確にしながら、真剣に話し合う姿が見られた。また、友達の意見に対し、「確かに」「あー」「なるほど」などの素直な反応を返し、学級全体で考えを深めていた。



全体会では、視覚的な支援の充実、年間を通して系統づけた授業計画、温かい授業の雰囲気、アンケートの活用の仕方などが話題になった。指導講評では、思いやりとは、相手の気持ちを推し量ることであること、また、道徳科の学習では、自分を見つめる時間、自覚する場をとり、自分の生き方に照らし合わせていくことが大切であることを御指導いただいた。

第2ブロック 南陽中学校 柞山梨絵子先生（2年生）

主題名 互いの個性や立場を認め、尊重しよう

B 相互理解 寛容

教材名 「茂の悩み」

部活動での出来事で、登場人物それぞれの立場や言い分、思いが異なるという資料をもとに、相手を認め、尊重することについて考えた。



事前にとったアンケートやネームプレートを活用し、「みんなが、いろいろな考え、気持ちになった時、どのように決定していったら良いのか」について話し合った。生徒からは、「自分の主張だけでなく、相手の意見を聞く。」「利点も説明する。」「説得をする。」といった意見が出た。

全体会では、グループワークを行い、本音を伝えられる学級づくりがなされていたこと、板書や発問の工夫等が挙げられた。また、意見の取り扱い方や有効なグループの組み方、話し合いの進め方などが話題となった。指導講評では、中心発問のタイミングや話し合いへのもっていき方について、御指導をいただいた。また、授業の板書の記録写真を持参し、紹介していただき、大変参考になった。

3ブロック 亀玉中学校 小栗 純子先生（1年生）

主題名 規律ある社会の実現 C 遵法精神、公德心

教材名「淳の住む町」

導入で、学校生活の中にあるルールについて考えさせることで、教材と実生活とを結び付けて考えられるように展開されていた。また、自分が登場人物の立場だったらどうするか話し合う活動を通して、法やきまりの意義をさまざまな角度から考えさせたい、集団の中での自分のあり方について考えさせたいという教師の指導観の元、構成されていた。生徒たちは、登場人物がとった行動の理由や、自分が登場人物の立場だったらどうするかということについて考え、友達と交流する中で、多面的・多角的に考え、自分の考えを深めていた。

全体会では、構造的な板書や発問の工夫、話し合いを深めるための手立てなど、様々な話題が出された。

指導講評では、本気で本音を語り合う子供たちに育てるための学級経営や道徳科の授業づくりについて、また、自分だったらと問う際に手段だけでなく理由を話し合わせることの大切さなどを御指導いただいた。



第4ブロック 舞阪中学校 三村夢佳先生（3年生）

主題名 信頼し合って友情を深める B 友情・信頼

教材名 「鏡の中の私」

友人との距離感に悩む中学生がインターネット上の書き込みが引き起こす人間関係のトラブルについて扱った資料をもとに、人間関係を深めるために大切なことについて考えた。漫画形式のデジタル教科書を用いた資料やアンケート結果を提示することで、生徒がより身近に、自分自身との関わりの中で考えられるように展開されていた。2人の登場人物の人物像や、とるべき行動について考え、付箋を用いて話し合うことで、よりよい人間関係構築のために大切なことを多面的・多角的に考えることにつながった。



全体会では、付箋の使い方や話し合いを深めるための手立て、終末の工夫など、様々な話題が出された。指導講評多様な意見を出し合うだけではなく納得解を考えることも大切であることや、児童生徒自身による振り返りを行うことの重要性などについて御指導いただいた。

中学校でも教科化がスタートし、「主体的・対話的で深い学び」の姿や、「質の高い多様な指導方法」のあり方、「評価」等について、研修を進めてきました。

夏の研修では、「考え、議論する道徳の授業」を目指し、講話や指導案作成演習、などを行い、どのような発問で「考え、議論する場」を作っていけばよいか、児童生徒の学習状況や成長をどのように評価していくのかなどについて研修を深めることができました。また、第3回研修会の授業研究では、児童生徒が自分のこととして捉えて判断する発問や、多面的・多角的に考えるための工夫、学びを深める自己の振り返り等の工夫を研修しました。

今年度の研修を生かし、さらに実践を積んでいきたいと思っております。



今年度は、研修集録のかわりに第3回研修会の折に指導案集を作成いたしました。是非、来年度の実践に役立てていただきたいと思います。